

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

連番	531	例会No.	一般333	内容	六甲・全山縦走(前半)	実施年月日	2013/11/4	担当者	野原、杉本(康)
参加者	野原勇、杉本康夫、福田直也、安部泰子、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	7
担当者コメント	<p>六甲全山縦走のスタート地点といえば、須磨浦公園が一般的だが、地理的には塩屋が最西端となる。私自身の六甲全山縦走へのこだわりからスタート地点を塩屋に設定。例会案内で脅し過ぎたのか、参加者が今年のエPE例会最少の7名となったが、私の狙い通り完走の覚悟のある方が集まりました。まず塩屋駅から商店街を抜け、山上遊園地を経て旗振山へ。安本(昭)さんの話では旗振山の茶店に歌手・俳優の佐川満男さんがいらしい(登山が趣味と言っていたような記憶があるので毎日登山のメンバーかも?)。旗振山から鉄拐山、高倉台団地を通り抜け梶尾山の400段の階段でひと汗を流し、横尾山から須磨アルプス、横尾団地、妙法寺の市街地を経て高取山へ。高取山は300m程度の低山ながらやや手強い。高取山へ向かう途中から小雨が降り出し、風も強くなった。帰宅して分かったことだが、この風が今年の木枯らし1号だったとのこと。高取山から鶴越駅までの丸山市街はうっかりすると迷子になってしまう。初めて六甲全山縦走を目指した30数年前、この町で迷いに迷いやっと辿りついた鶴越駅で全山縦走を断念した苦い経験があります。さて六甲全山縦走の前半最大の難関、菊水山の登り。参考にはならないが極意は我慢で登り切るという単純なもの。この山は登るのに苦労させられるが、頂上からの展望は申し分ない。過去にこの山頂で一晩寝たことも思い出す。次の難関、鍋蓋山へは菊水山から天王吊橋まで下降する。いつも思うことだがこの下降が勿体ない。下降した標高差以上に登り直す。山登りに来て寝言を言うなど言われそうだが毎回思う。鍋蓋山から市ヶ原へは夕闇との競争。暗くなり切るまでに市ヶ原までと思うが、市ヶ原直前の樹林帯で明かりなしでは行動困難となりヘッドランプを灯す。無人の市ヶ原から布引貯水池を経て新神戸駅へ。新神戸駅前で解散。木枯らし1号が吹く中、最後はヘッドランプの明かりを頼りに長時間の歩行大変お疲れさまでした。記:野原</p>								
連番	532	例会No.	一般334	内容	ベーシック登山No.21 泉南・飯盛山	実施年月日	2013/11/9	担当者	秋田、翁長
参加者	秋田文雄、翁長和幸、松本明恵、岡本佳久、山本洋、田中繁夫、堀木宣夫、渡邊恵美子、福田直也、山 杵初好							参加者数	10
担当者コメント	<p>快晴とは云えないが、上々のハイキング日和で、新しい人が2人参加してくれました。コースは上孝子手前の高仙寺参道より始まる。石段の途中で山門が現れた。田舎の山寺であるが立派なものだ。両側には登っていく私達を見据えるように一對の仁王像が立っている。本堂まで更に石段が続く。和泉山系には役の行者ゆかりの地が多い。ここ高仙寺もその中の1つ。役の行者が影ったと云われている観音像が秘仏としてここに祀られている。本堂のうらより山道に入る。鬱蒼としたカシ林の急登を高野山まで登る。一汗かいたところで小休して。しばらくは頭上を覆う雑木のトンネルを歩く。いかにも里山らしい道を、上り下りしながら札立分岐を過ぎ、朱塗りの小さな鳥居前に出た。役の行者の開基とされている千間寺の跡である。葛城二十八宿のうち第四番目の行場だったと案内板には書かれていた。千間寺は僧兵が多かったようで織田信長や秀吉の紀州雑賀、根来攻めの時に焼かれたとの事である。五百年前に壊された瓦が今でも残っていて1つ、2つ手に取ってみた。いかにも歴史のロマンを感じる所である。山頂はその先すぐの所。急に視界が広がり大阪湾が眼前に現れる。飯盛山山頂着、12時45分。ランチタイムとなる。山頂横にイヤな看板が立っていた。「第二阪和道路工事の為、みさき公園駅には下山できません」とある。がしかし、いつもながらの樂觀ムード。「どうにかなるだろう・・・」で、みさき公園駅へ向かう。5カ月ほど人が歩いていないので、少し不明瞭な所があったが下り続けていく。ブルドーザの音が聞こえ急に工事現場が現れた。山肌が急傾斜に削られているので危ない。少し戻り西に向かう踏み跡をたどる。工事用フェンスの切れ目から住宅街にでた。5~6mほど横の登山道らしい道に「立ち入り禁止」の看板があった。私たちはそこを下りてきた訳ではないので後ろめたさはない。いつもの「どうにかなるだろう・・・」というのが正解であった。記:翁長</p>								
連番	533	例会No.	OP191	内容	岡山・岡山県立森林公園、 矢筈山 歴史探訪シリーズNo. 24	実施年月日	2013/11/9~10	担当者	小椋(勝)、 紀伊栞本(節)
参加者	小椋勝久、紀伊栞本節雄、青木義雄、大石隆生、片山純江、紀伊栞本博美、上原進一、小杉美代子、 櫻井宏子、杉本栄子、寺島直子、池田える子、三浦清江、三原知未、山下登志子、寄川都美子、和田敬 子、和田良次、和田都子、實操綾子							参加者数	20
担当者コメント	<p>泉山以来、2回目の故郷の山を紹介する事になり、期待と不安な気持ちを抱き中国道を西へ向かう、バスに揺られること4.0時間、森林公園に到着。標高800mの森林公園は紅葉も終わり、所どころ秋を惜しむかのように楓、もみじの紅葉が残る程度でもう晩秋の装い、しかし、紅葉の代わりに私たちを出迎えてくれたのは、赤い実を实らせた真弓の木と唐松の黄色に色づいた葉でした。「深山辺(みやまべ)や 真弓よりこき 色ぞなき 紅葉は秋の ならひなれども」土御門院 しばし頭上の真弓の実を眺めて 登山道へ、落ち葉の中、登山道を千軒平に向かう、尾根道へ出る登山道は、ゆるい登りが続く、尾根道へ出、しばらく歩くと千軒平に到着、千軒平は360度の展望、西に蒜山三座から大山、南に泉山、東には後山方面の大パノラマ 故郷に、こんな山が有ったのかと改めて感激し1人ではしゃいでいました。快適な尾根道をもみじ平から奥ぶなの平へと向かう、途中ゆく秋を惜しむかのように残る紅葉を見ながら下山する。その日の夕食は山菜づくしの夕食、話も弾み楽しく食事をすることができました。朝食には、私の父親からの差し入れの なめこ茸の味噌汁を皆さんに召し上がっていただきました。二日目は雨となり矢筈山は中止、歴史探訪の一つ津山城へ途中、紅葉の名所 奥津溪を見物し、衆楽公園から美作森家18万石の居城、津山城に向かう。雨に煙る城跡の石垣は哀愁を感じ、この場所に5層の大天守閣が有った事を改めて思い出させ、てくれました。雨も本降りとなり心残りのする中、帰途へ付く。泉山、森林公園と2回、故郷の山を紹介させて頂きました。紹介することにより改めて自分自身が故郷の良さに気付くことができ、本当にありがたく思っています。又、今回宿泊した奥津温泉ことぶき荘の皆さん、東豊観光(株)の伊藤さん無理を聞いて頂きありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。記:小椋(勝)</p>								
連番	534	例会No.	一般335	内容	丹波・烏ヶ岳と鬼ヶ城	実施年月日	2013/11/17	担当者	大西(恒)、翁長
参加者	大西恒雄、翁長和幸、寺島直子、杉本栄子、小杉美代子							参加者数	5

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>参加者5人というのは何をしても都合が良かった。もちろんタクシーも1台で全員が乗れる。予定は印内から烏ヶ岳を経て鬼ヶ城に至るコース設定であったが、逆から行く方が帰りのタクシー利用に良さそうなので観音寺の方から入ることに変更。観音寺の山門(仁王門)前でタクシーを降りる。門には左右に立派な阿吽の仁王さんが門番をしている。仁王さんは運慶の作らしい。仁王門の奥には立派な本堂がある(寺伝では行基の開基という)が寄らずに門を潜って本堂下を直進(しばらくは舗装、そして土の林道に変わる)する。この鬼ヶ城を含め、本堂を囲む一帯の山々は寺域で僧坊があちこちにある。鬼ヶ城登山口と案内のある道を進む。途中で長靴を履いてチョッとそこまで行って来たという感じで下って来た二人の村の人にあった(村は僧坊より下にある)。鬼ヶ城は庭みたいな感じだ。すぐに道は谷(沢)にあたる。堰堤の下を石伝いに渡って山道に入り、杉・檜が植林された谷沿いの道を上っていき20分ほど登ると、峠ではないが傾斜が緩み分岐に着く。道標が鬼ヶ城と烏ヶ岳への道を示している。先に鬼ヶ城に行く。山頂まで800mの看板、しばらく歩くとあと500mの標柱、道は平らで歩きやすい。東屋があった。メモリアルの森の記念植樹した人の名前がずらりと書いてある。平らな道が段々になって続いている。ここは曲輪(くるわ)跡と思われる。急な道をひと登りすると鬼ヶ城の頂上であった。360度の視界、気持ちいい草原状の頂上である。さぞや、その昔は物見台の役目を果たしたことであろう。眺望と昼食を堪能し、分岐まで戻り烏ヶ岳に向う。分岐からちょっと下ると舗装道路に出る。舗装道路を登ると終点は平らな広場状で一本の木があった。木には烏ヶ岳の表示板がぶら下がっていた。烏ヶ岳の頂上である。横には立派な通信施設のレーダーのアンテナが占領していた。傍らに秋葉神社の小さな祠がひっそりとあった。アンテナの横を回ると大きな反射板があり、その横を通って林道の中を下ることになる。展望の開けた伐採地に出ると下に人家が見え出し、なおも下ると電気柵を張り巡らしたところに出た。猪除けの柵である。こらではよく目にする。電気柵を開けて外に出て、公民館まで歩くとこのハイキングも終わった。記:大西(恒)</p>									
連番	535	例会No.	一般336	内容	鈴鹿・鍋尻山	実施年月日	2013/11/23	担当者	紀伊栞本(節)、西村(晶)	
参加者	紀伊栞本節雄、西村晶、岩本和行、和田良次、和田敬子、藤田喜久江、和田都子、寄川都美子、小杉美代子、堀木宣夫、福田直也、安本昭久、安本嘉代、近藤さとみ、保木道代、寺島直子、杉本栄子、片山純江、池田える子、紀伊栞本博美								参加者数	20
担当者コメント	<p>うれしいことにこの日は終日快晴に恵まれた。しかし、1600年10月21日、天下分け目の関ヶ原合戦は小雨だったという。薩摩の島津義弘軍は負け戦と知ると忽然として東へ敵中突破を図った。その後どうしたのであろうか。義弘は20名ほどの側近に守られ、伊勢街道を南へ走るとみせて、霊仙山の南、五僧峠を越えて保月に至り、杉坂峠から多賀高宮に無事通れたという。壮絶な戦いの最中、一瞬の決断でこれほどの気概をみせた義弘はそのとき66歳だったという。この痛快な史実から、保月が私の胸中にじわじわと広がった。鍋尻山はその副産物で申し訳ないが、同じやるなら参加者の皆さんと同じ初見で、同じ感動、同じ喜び、同じ一抹の不安を合わせ持つことに意義があると思いました。慌ただしい一日でしたが、いつの機会かまた、保月の向こうの五僧峠(廃村)への思いを果たしましょう。記:紀伊栞本(節)</p>									
連番	536	例会No.	一般337	内容	仙谷経一郎氏慰霊登山 京都北山・焼杉山	実施年月日	2013/12/1	担当者	野原、大石	
参加者	野原勇、大石隆生、近藤さとみ、神阪洋子、寺島直子、安本嘉代、谷村洋子、寄川都美子、保木道代、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、高木恵美子、辻角ますみ、秋田文雄、翁長和幸、大西恒雄、和田都子、和田敬子、上原進一、黒澤百合子、西村晶、西村美幸、山岸悟、山岸郁子、杉本康夫、安部泰子、福田直也、前田守、山本洋、岡本佳久、青木義雄、堀木宣夫、安本昭久、安岡和子、杉本栄子、山下登志子、戸松高志、戸松みつえ、川崎喜美子、西野勇治、磯辺秀雄、和田良次、山耕初好、片山純江、池田える子、榎田誠寛、江本恭子、齋藤容子								参加者数	48
担当者コメント	<p>2年余り体調不良から、山から遠ざかっていた仙谷経一郎さんが8月に亡くなられ、その慰霊登山が生前最後に登られた「京都北山・焼杉山」にて行われました。この慰霊登山の計画段階では、これほど多くの参加者が集まるとは想定していませんでした。担当者としては嬉しい誤算でした。また、このことは仙谷さんに親しみを感じていた方がいかに多かったかということです。こんなに多くの方に慕われていた仙谷さんは本当に果報者です。今回の例会を通じて仙谷さんの存在感をあらためて感じました。古知谷阿弥陀寺前の広場にて本日の慰霊登山趣旨説明とコース案内。登山口から最初の鉄塔を過ぎるまでジグザグの急登、第二の鉄塔を経て第三の鉄塔までは緩やかな登りだが、第三の鉄塔手前の斜面のトラバースが、このコースを下りに取った場合にはスリップしやすく気を付ける必要がある。第三の鉄塔から頂上までは、急登が2ヶ所ある。2年前の7月に行った例会時は、大原から寂光院を経て、焼杉山頂上、そして古知谷阿弥陀寺へ下山しています。今回は全く逆コースとしましたが、その最大の理由は下見登山時にこの急登を下りに取った場合、落ち葉などによるスリップ、滑落の危険性を感じたことにあります。今回は安全第一の登山としました。焼杉山頂上で、今回例会の主目的である慰霊セレモニーを実施。担当者が準備した遺影、酒、ビール、花、タバコ、お菓子、また参加者から花や飲み物の追加提供もあり一緒にお供えさせていただきました。その後、代表による焼香(他の参加者は黙とう)、死亡経過説明、泉州山岳会会長挨拶、弔辞、EPEクラブ代表挨拶など滞りなく実施することができました。頂上でのセレモニーと昼食後、翠黛山・天ヶ岳分岐を経て、紅葉狩りの観光客で賑やかな大原へ下山。寂光院前の広場で解散としました。今回の例会は慰霊登山という特別な性格上、準備から実施まで、皆さまのご理解、ご協力なしでは遂行できないものでした。ありがとうございました。記:野原</p>									
連番	537	例会No.	一般338	内容	播州・七種薬師	実施年月日	2013/12/14	担当者	翁長、杉本(康)	
参加者	翁長和幸、杉本康夫、岩本和行、安部泰子、神阪洋子、近藤さとみ、寺島直子、杉本栄子、黒澤百合子、安本嘉代、谷村洋子、板谷佳史								参加者数	12

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	インターネットで色々調べてみると「牛舎の裏から登る」とあり「臭いが強烈」とあった。ここの牛舎はかなりの数で、相当大規模に経営されているようだ。今日は寒く風も結構強い為か、それ程の臭いではない。登山口からいきなりの急登。木の枝を挿んでせり上がるように登る。ハッキリしない踏み跡をたどり尾根上へ。傾斜はうんと楽になり、やせた岩尾根をいく。コルの向こうに、いよいよ核心部の岩場が現れた。コースが少し左にカーブしているので、尾根側面の岩壁が正面に見える。かなりの岩場のようだ。ルートは岩壁上縁部をたどるように行く。30mのロープをフィックスしたが、誰もロープに頼らず登ってきた。われらが山ガール、山ボーイは頼もしい。核心部は終わり、十字峰より山頂へ。山頂からは先日例会のあった明神山が西に、北には七種山、北東には先の尖った七種槍がよく見える。次の関心事は下山時のゴリラ岩。西尾根をドンドン下って、登山口の明応池が間近に見える頃、ゴリラ岩の上に出た。岩の基部からゴリラ岩を見上げると、高さは20mぐらいでオーバーハンクしていた。ここから急降下で明応池に下りた。この山は登山道といわれる明瞭な道はない。赤いテープと踏み跡らしきものを、ひろいながらの山登りとなった。人はあまり入っていないようだ。記:翁長								
連番	538	例会No.	OP192	内容	鈴鹿・仙ヶ岳～宮指路岳	実施年月日	2013/12/22～23	担当者	板谷、安部
参加者	板谷佳史、安部泰子、寺島直子、保木道代、黒澤百合子、近藤さとみ、江本恭子							参加者数	7
担当者コメント	12/22 亀山では時々日が射す天気だったが、山間部に入ると真黒な雲で、時々しぐれる。人影は全く無く寒々としているのに、なぜかトイレだけは小奇麗に清掃され24時間電気設備完備の、小岐須溪谷キャンプ場で駐車場にテントを張って一夜を過ごした。 12/23 昨日は冬至、6:30でもまだ暗い中を出発する。林道には積雪があり、林道終点から登山道に入る頃には本格的な積雪である。仙ヶ谷沿いの渡渉を繰り返すルートに何度か迷いながら小社峠への最後の登りになるとヒザ上までのラッセルとなった。小社峠すなわち鈴鹿の主稜線に飛び出すとさすがに北からの風が冷たい。そこからアイゼンを着け交代でラッセルして仙ヶ岳を往復し、再び小社峠に戻る。ここまでですでに予定時間をだいぶ上回ってしまったし、宮指路岳からのトレースの無い下山コースへラウンドするのは少々やっかいだ。ルート探しに時間を費やす危険を避けたいということで、宮指路岳への尾根を時間制限で往復するにとどめ、登ってきた我々のトレースを引き返すことに計画変更した。クリスマスを待たずしての期待を上回る積雪量に、我がパーティの力量では残念ながら計画どおりの山行を果たせなかった。記:板谷								
連番	539	例会No.	一般339	内容	京都北山・十三石山	実施年月日	2013/12/22	担当者	野原、西村(晶)
参加者	野原勇、西村晶、杉本栄子、神阪洋子、安岡和子、小杉美代子、和田都子、片山純江、福田直也、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子							参加者数	12
担当者コメント	今日の天気は晴れていればボカボカとした陽気、曇れば寒気、そうかと思えば急に雨が降り出し、またちらちらと白いものが瞬間的に舞うという複雑な一日でした。出町柳駅から乗った叡山電鉄では展望電車という座席が窓側に向く車両に初めて乗車。車両自体も四季をイメージしたペインティングがなされており楽しい車両だ。無人駅の二ノ瀬から川沿いに歩き線路を越え、東海自然歩道の道標に従って夜泣峠を目指す。夜泣峠から東海自然歩道を外れ向山へ。向山頂上は木立の中にあり見晴らしは良くない。向山頂上からは平坦な尾根道を経て水力発電所を目指す。発電所手前は結構な急坂だがなぜか「散策路」の表示。普通の感覚ではこんな急坂を「散策路」とは言わないが・・・。十三石山へは一旦府道を横切り、盗人谷一の橋、二の橋、三の橋を経て小峠へ向かう。盗人谷という恐ろしい名称の由来が気になるが、綺麗な水が流れていました。小峠へは結構急な登りの箇所もあり、ひと汗をかく。昼食を予定していた小峠は展望がまったくないため、十三石山の途中にある展望台へ。展望台から眺めた比叡山の山頂付近は真っ白に雪化粧。十三石山は展望台から満樹峠を経てひと登りで山頂へ至る。山名プレートを探すと頭上4m位の高い木の枝にぶら下がっていた。冬はあんな高いところまで雪があるということであろうか？下山は一旦小峠まで来た道を引き返し、右折して北山杉の美林の中を5分程度で氷室の集落へ。氷室の集落は山に囲まれた静かな雰囲気漂った山里だ。本日の行程は全体的に京都北山らしい雰囲気のあるものですが、氷室から鷹峰光源庵バス停までの車道歩きは長過ぎました。次回からの例会計画での反省点のひとつ。2013年最後の一般例会終了。EPE会員の皆さま、良いお年をお迎えください。記:野原								
連番	540	例会No.	一般340	内容	金剛山	実施年月日	2014/1/3	担当者	西村(晶)、翁長
参加者	西村晶、翁長和幸、小杉美代子、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、佐藤敏子、前田守、寄川都美子、寺島直子、安岡和子							参加者数	11
担当者コメント	12月中旬の寒波の雪が残っているのを期待しながら歩きだす。カトラ谷の出会い付近ではうっすらと雪が現れてきました。セトより尾根道沿いに登る、日陰の所は少し凍っているので慎重に足を進める。国見城跡の広場は雪が残っているが、お天気も良く沢山の登山者で溢れています。氷化した階段を登り転法輪寺に初詣、安全登山を願う。記:西村(晶)								
連番	541	例会No.	一般341	内容	播州相生・天下台山	実施年月日	2014/1/5	担当者	紀伊栞本(節)、杉本(康)
参加者	紀伊栞本節雄、杉本康夫、野口秀也、岩本和行、近藤さとみ、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、神阪洋子、福田直也、高木恵美子、辻角ますみ、小杉美代子、紀伊栞本博美							参加者数	14
担当者コメント	初登山は今年も昨年も快晴に恵まれた。今年も何かよいことがあるだろうと参加者一同、晴々とした気分である。眺望に恵まれたのもうれしい。山や(山登りをする人)は妙な人種で、今日登った山から、昨日登った山が見えると「あれよ、あれよ」とわいわい嬉しがる。そしてまた、行ったことのない山が見えると「明日はあれ、明日はあれ」と駄々っ子のように登りたくなる。こんなDNAに染まると、厄介なことだが本物の山病いの仲間入りをしたことになる。それがええことか、わるいことかは知らない。皆さん、本年もあの山この山と元気に巡り歩きましょう。どうか、本年もよろしくEPE活動をご支援賜りますようお願い致します。記:紀伊栞本(節)								
連番	542	例会No.	一般342	内容	新年ハイキング・槇尾山	実施年月日	2014/1/12	担当者	野原

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

参加者	野原勇、紀伊榎本節雄、秋田文雄、磯辺秀雄、翁長和幸、板谷佳史、西村晶、西村美幸、大石隆生、紀伊榎本博美、安部泰子、古松育代、和田良次、和田敬子、永島健一、谷村洋子、安岡和子、横内まみね、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、寄川都美子、寺島直子、山下登志子、高木恵美子、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、上原進一、實操綾子、杉本栄子、藤田喜久江、小杉美代子、片山純江、戸田晴子、池田える子、牛山友幸、牛山恵美子、梶田誠寛				参加者数	41			
連番	543	新年会	内容	牛滝山「いよやかの郷」	実施年月日	2014/1/12	担当者	小椋(勝)、杉本(康)、大西(恒)	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、大西恒雄、紀伊榎本節雄、和田晴次、神阪鐵志、神阪洋子、秋田文雄、磯辺秀雄、翁長和幸、板谷佳史、大石隆生、紀伊榎本博美、野原勇、安部泰子、古松育代、松本明恵、青木義雄、松田芳治、松田(芳)友人、和田良次、和田敬子、永島健一、谷村洋子、安岡和子、横内まみね、櫻田克彦、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、寄川都美子、寺島直子、山下登志子、高木恵美子、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、上原進一、實操綾子、杉本栄子、藤田喜久江、片山純江、戸田晴子、池田える子、牛山友幸、牛山恵美子、梶田誠寛				参加者数	49			
担当者コメント	今年も新年会会場は「いよやかの郷」ですが、ハイキングへの送迎バスのサービスがあるため、かなり自由なコース設定ができるのでありがたいことです。今年のハイキングは泉州在住の登山者にとってはホームグラウンドと言える榎尾山施福寺周辺です。3時間ほどの歩きを楽しんだ後、会場へ移動し総会と新年会に臨みました。今年も会員の皆さんの健康と山行の安全を願って乾杯した後、なごやかなひと時を過ごしました。 記:板谷								
連番	544	例会No.	一般343	内容	湖北・赤坂山と三国山	実施年月日	2014/1/18	担当者	大石、翁長
参加者	大石隆生、翁長和幸、安本嘉代、安本昭久、寺島直子、紀伊榎本博美、保木道代、神阪洋子、谷村洋子、寄川都美子、前田守、岸田暎子、板谷佳史、安部泰子、近藤さとみ、山柙初好、村浪義光				参加者数	17			
担当者コメント	「マキノ高原温泉ささ」の前でバスを降り、敦賀市にお住いの村浪さんと合流し、装備を整えて歩き始める。スキー場のお子様専用ゲレンデの端にある道標に従い樹林帯の遊歩道を登って行く。登るにつれて雪の量も増え、冬らしき雰囲気になってくる。しっかりと踏み固められたトレースを辿りブナの木平に着く。四阿があるが、スノーシューのツアーとおぼしき団体です。満員状態。バスで乗り合わせた人達と合わせると、ツボ足組は我々だけのようだ。雨それともあられ？が降り出した中を緩やかな登りから沢沿いに進み、ジグザグに登り切ると灌木帯となり、雪原状の栗柄越に着く。積雪量は1m前後か、周りは冬山そのもの。小さな雪庇が張り出した赤坂山の頂上はすぐそこに見える。好き勝手につけられたトレースの中から歩きやすそうなものを辿って赤坂山頂上へ。先行者は無く、雪混じりの風があり寒い。ガスっていて琵琶湖側も若狭側も何も見えない。三国山が時々見える程度。ここから先にはトレースはなく、ツボ足でのラッセルで予定通りに進むと明るいうちに下山するのは無理と判断して往路を下山することにする。ジグザグに登って来た登山道では童心に帰って尻セードを楽しみながら下り、周り一面雪だらけの世界から地面が顔を出している今朝のバス停へと戻った。 記:大石								
連番	545	例会No.	一般344	内容	ベーシック登山No. 22 和泉山脈・根古峰	実施年月日	2014/1/25	担当者	秋田、翁長
参加者	秋田文雄、翁長和幸、堀木宣夫、松本明恵、岩本和行、青木義雄、磯辺秀雄、山下登志子、寄川都美子、岸田暎子、小原武尚、紀伊榎本節雄、紀伊榎本博美				参加者数	13			
担当者コメント	総勢13人が天見駅に集合。朝の日差しが心地よい。10:00流谷へ向け出発。八幡神社の橋のたもとに、藁が巻かれた杉の巨木があった。何回かここを通っているが気づかなかった。勸進杉と銘があったので、何やら、いわれがありそうに思い調べてみた。毎年1月6日、この勸進杉と川向こうの柿の木に、しめ縄をかける「縄掛神事」と云う行事があるとの事。このしめ縄が米の収穫時まで残っていると、その年は豊作だと云われているそうです。ちなみに、しめ縄の重さはおよそ100kg、長さ約70mあります。昔は村人が総出でしめ縄を作り、流谷に架けたのでしょ。大変な行事だったと思われます。流谷からアシ谷へ。二股になった林道終点から右手の沢筋を行くのだが、伐採の小枝が散乱し山道は分からなくなっている。620mピークを目指しズリ落ちそうな急斜面を直登。たどり着いた小尾根からは良く手入れのされた植林帯に行く。明瞭になった山道は根古峰手前から再び不明瞭になるが、歩き易いので適当に進む。ピークを確認しダイトレに合流。ランチタイムとする。このコースは最近歩く人が少ないようで、所どころ道が不明瞭になっている。三合目からは根古谷経由、紀見峠へ。紀見峠着14:00。 記:翁長								
連番	546	例会No.	OP193	内容	鈴鹿・カクレグラ	実施年月日	2014/1/26	担当者	板谷、大西(恒)
参加者	板谷佳史、大西恒雄、寺島直子、安岡和子、安部泰子、黒澤百合子、保木道代、谷村洋子、近藤さとみ				参加者数	9			
担当者コメント	タクシー乗車中から小雨が降り出し、雨の中の出発となった。植林帯を登る間は積雪もほとんど消えており、上でもこの調子なら面白くないな・・と思いつつ進む。しかし植林帯を抜けて「水呑岳」と名付けられたピークを過ぎ、頂上稜線を行く頃には本格的な積雪となり雨は雪と変わりやがてそれも止む、もちろん先人のトレースはなく雪山を充分味わえる。カクレグラと言うだけあり、頂上稜線に出てからいくつピークを越えてもなかなか山頂に出ない。やがてそれ以上高いところが無い場所に出、山名板の懸る木もあり山頂を確認する。計画どおり更に頂上稜線を西に行き、佐目の八幡神社登山口に下山したい誘惑にかられるが、ここまでで時間を費やしてしまったし、更に頂上稜線でのルート探しの続きが待っていることを考えて諦め、往路を戻ることにした。 記:板谷								
連番	547	例会No.	一般345	内容	大峰・観音峰	実施年月日	2014/2/2	担当者	杉本(康)、板谷
参加者	杉本康夫、板谷佳史、神阪洋子				参加者数	3			

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	大峰方面に登山する路線バスはこの時季には朝は1本しかなく、登りにくい山となり寂しい限りです。路線バスなので旧道の集落の中の停留所を通って行き、途中梅の名所広橋梅林があって梅まつりが開催されるようです。見ごろになり催し物が開かれる頃にはさぞかしきれいな梅の花が咲いているのではないのでしょうか。前日の天気予報では昼前には雨が上がるのでこのことであつたので、予定通り決行する。観音峰に出発する頃には雨も止んでいたが、3日前にも雨が降っていたので、観音峰のピーク付近にしか雪は残っていなかった。観音峰登山口の駐車場は団体のマイクロバスが数台止まっていて、このような天候であっても私たち以外にも、登る人はいるんだと感心する。登山道は泥道と化し、ここで転んだら目も当てられないなと思いつつ一歩ずつ慎重に歩く。観音平では、稲村が岳から八経が岳の雪をまとった景色を期待していたが、雲に覆われ何も見えない。時折雲が薄くなり期待を持たせてくれるが、残念ながら展望はない。2時間ほどで観音峰に到着する。気温も高く吐く息も白くはならないが1,300mの高さでは、休憩すると風は冷たい。山頂は樹林の中で展望はなく、早々と下山する。足元の悪い中登ってきたので、登山靴はどろどろに汚れ、登山口の休憩所横に水道があつたので靴を洗うことができた(よかつた、よかつた)。例会ではあるが3人だったので、個人山行のようなのんびりとした山行が楽しめました。記: 杉本(康)									
連番	548	例会No.	OP194	内容	東北スキー場巡り、その1 岩手山・八幡平パノラマスキー場 と下倉スキー場	実施年月日	2014/2/2~5	担当者	紀伊栞本(節)、大西(恒)	
参加者	紀伊栞本節雄、大西恒雄、大石隆生、達健一、上原進一、和田良次、和田敬子、安本昭久、安本嘉代、杉本栄子、片山純江、小杉美代子、紀伊栞本博美							参加者数	13	
担当者コメント	折しもいま、冬季オリンピックが開催中です。連日、激しく華やかな映像がテレビから流れています。いつけん、これが契機で冬のスポーツ熱が再来すると思われるそうですが、果たして私には楽観できません。いま写し出されている映像はあまりにも観せるためのスポーツで、現実とは遊離しています。スポーツを観る目はどんどん肥えてきましたが、それを自分のものにしようとする人は、ほんの一握りの素材の持ち主に限られないのでしょうか、これが冬のスポーツの宿命かもしれません。或いは映像文化の宿命かもしれません。今回の八幡平スキー場も今シーズン閉鎖との噂が流れていたそうです。他にも来年の候補地も怪しい噂があるようです。このHPの写真から何かを感じて頂けたらと思います。昔の若者、即ちオールドボーイにとって今は100年に一度のスキーヤー天国とは、もはや言えなくなって来ました。まさにスキー伝来100年目の危機を迎えています。せめて昔の紳士、淑女たち、本来のスポーツ愛好者に立ち戻りましょう。楽しく優雅に力強く、EPEは前を向いて。記: 紀伊栞本(節)									
連番	549	例会No.	一般346	内容	湖北・小谷山と長浜の盆梅展	実施年月日	2014/2/8	担当者	大石、野原	
参加者										
担当者コメント	中止									
連番	550	例会No.	一般347	内容	湖東・鏡山~城山	実施年月日	2014/2/16	担当者	板谷、紀伊栞本(節)	
参加者	板谷佳史、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、安本昭久、安本嘉代、寄川都美子、近藤さとみ、寺島直子、杉本栄子、小杉美代子、神阪洋子、岸田暎子、谷村洋子							参加者数	13	
担当者コメント	以前、竜王アウトレットに立ち寄る機会があり駐車場近くで「鏡山-城山ハイキングコース」との看板を見かけました。帰って調べてみると、鏡集落の歴史とともに鏡山は古来から和歌に詠まれるほどの名山とのことで、一年ほど前さっそく歩いてみました。一日の軽登山として適当なコースと思い例会で紹介することになりました。バスには乗らず篠原駅からの歩きで鏡山登山口バス停へ。(ここは旧名称「竜王スケート場口」バス停でありまして、2000年にスケート場が廃止されてからバス停名が変わったようです、昔は盛んにCMが流れていたスケート場今では廃墟となっているようです。)前週は全国的な降雪ではあったがこの付近は少なかったようで大谷コースにはわずかな残雪のみ、トレースもあり早い時間で鏡山山頂へ。そこから先にはトレースも無く靴が潜る程度の積雪量で新鮮な尾根歩きが出来ました。最後のピーク城山山頂で暖かな日差しの元展望を楽しみ、広く立派な希望が丘文化公園に下山し、そこからちょっと長い歩きのすえ竜王アウトレットへ。超満員のアウトレットは敬遠してさっそく帰りのバスに乗りました。記: 板谷									
連番	551	例会No.	一般348	内容	六甲山縦走(後半)	実施年月日	2014/2/23	担当者	野原、翁長	
参加者	野原勇、翁長和幸、前田守、福田直也、西村晶、江本恭子、杉本栄子、寄川都美子、安岡和子、安部泰子、板谷佳史							参加者数	11	
担当者コメント	今回は、昨年11月に実施された六甲山縦走(前半)の後半戦。今年の2月は週末毎に太平洋側に大雪を降らせていたため心配していた天気も晴天、登山日和となった。今日は行程的にも楽勝と思っていたが、実際に山に入ると、登山道には多くの雪が残っており、かつ多くの登山者によって踏み固められているため滑りやすくなっている。アイゼン装着の指示を出すことになってしまった。時期的に残雪が想定されたため、例会案内に「軽アイゼン持参のこと」と書いてはいたが、書いた担当者自身が今日のように長時間、長距離を使うとは全くの想定外。足元が悪いため雪道歩行、アイゼン歩行に慣れていない方には負担だったのか、六甲ガーデンテラスで1名を下山させることになってしまいました。スピードアップを図るため、車道歩きを積極的に活用。本来の山道を歩いていれば所要時間はもっと長くなっていました。日没までに塩尾寺まで行くため参加の皆さんには申し訳なかったが、休憩時間を削ったり、休憩間隔を長くさせていただきました。塩尾寺からの下りで久しぶりに神戸の夜景を見ました。昔風の表現で言うと100万ドルの夜景。泉州山岳会現役の頃は見飽きた景色でしたが、やはり感動ものです。記: 野原									
連番	552	例会No.	一般349	内容	紀州・大旗山僧兵の道 ・城跡トレッキングコース	実施年月日	2014/3/2	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、三原博子、藤田喜久江、和田都子、池田える子、牛山友幸、牛山恵美子、戸田晴子、實操綾子							参加者数	10	

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	JR和歌山駅から、ネコ駅長で有名な貴志川線に乗り換え、市街地を抜け出た頃、南東方面に大旗山が見えてくる。大池公園駅で下車、大旗山の登山口である。駅前の空地で今日のコースの概要を話す。あらかじめヤブコキになる事とルートハンディングが難しい事を説明し曇り空の下を歩き始める。射撃場の横に取り付きが有るはずだが、いきなり見失い反対方向に歩き始める早々に気が付きコンパスと1/25000の地図を取りだしルートファイディング。情報によると迷いやすいとの事、やっとなり取り付きを見つけて歩きだす。前半はヤブコキの連続、やっとのことで快適な尾根道に出る、しばらく歩き始めると本来なら西側には見えない池が見え始める、地図で確認すると、主稜線から東の支尾根に入っている事に気がつく、地図を見ると不動明王に続く道と確認する事が出来、そのまま下降する。結果的にはショートカットをした事になったが猛反省。しかし参加した皆さんに面白かったと声をかけられほっとする。ここからは快適なハイキングコースとなり大旗山へ、山頂付近で休憩し黒岩方面へ下山する。今回はルートファイディングの難しさを教えてくれた山行きになりました。記:小椋(勝)									
連番	553	例会No.	OP195	内容	第12回スキーカーニバル 北海道・イン・ニセコ・セラフ	実施年月日	2014/3/2~6	担当者	紀伊栞本(節)、 西村(晶)	
参加者	紀伊栞本節雄、西村晶、翁長和幸、大石隆生、野原勇、上原進一、安本昭久、安本嘉代、寺島直子、山下登志子、安岡和子、杉本栄子、片山純江、小杉美代子、紀伊栞本博美								参加者数	15
担当者コメント	ロッカースキーという新型スキーが現れました。ロッキングチアーの足の様にスキー板が反り上がっていて(見た目は解らないが、昔の板のようなベントの反りが無い)深雪、パウダー向きの機能が強いらしい。ツインチップスキーという、板の前後が丸く反り上がっているスキー板も数年前からよく見かけるようになりました。これは後ろ向きに滑ることも可能にしたフリースタイルスキーの機能を備えているらしいです、ただしこれはあくまでも店頭での話しです。身近にそれらを使用している人の話しではありません。さてニセコの報告です。外国人(オーストラリア)の多いのには驚きました。とくに花園ゾーンは別格で、彼らはゲレンデの隅々から樹林の中まで自由自在に滑走しています。アフタースキーもまるで我が庭を闊歩するようで、その旺盛な遊び上手には我々日本人が肩身の狭い思いを感じました。でも一番の驚きは、彼らが実際に足にする新型スキーの様々です。まるで全員が最新型デモのようで、その機能を存分に楽しんでいるかに見えました。帰宅後、私は早速スキー専門店に出かけました。スポーツの進歩に用具の改革は欠かせません。そんなことは承知の上で、もはや高齢者には関係ないと思っていましたが、少し私の考えを訂正しました。「高齢者こそ用具の進歩改革の恩恵を受ける」べきで、その効果を生かし、少しでも長く安全にスポーツを楽しむべしとです。ただし店の人はこんな失礼なことは云いませんが、高齢者にとって、この先数年にターゲットを絞っても決して損はしません。見るより習えです、ニセコの外国人は良いことを見習わせてくれました。EPEの皆さん、遊びは人生の学びです。来シーズンのスキーを精一杯楽しむためにも、今日から精一杯、遊び、学びましょう。オー！シーハイ！記:紀伊栞本(節)									
連番	554	例会No.	一般350	内容	生駒山地・生駒山~高安山	実施年月日	2014/3/9	担当者	杉本(康)、翁長	
参加者	杉本康夫、翁長和幸、青木義雄、寄川都美子、小杉美代子、岡本佳久、岸田暎子、松本明恵、近藤さとみ、駒井万生子、杉本栄子、谷村洋子、黒澤百合子、山栴初好、安部泰子								参加者数	15
担当者コメント	辻子谷道は江戸時代後期に、生駒宝山寺への参詣道としてたいそう賑わっていたそうである。その頃から明治にかけて、当時流行っていた四国八十八か所霊場巡りを模倣したミニチュア版石仏群が興法寺まで続いている。このような石仏群は河内ではこの辻子谷道が完全に近い状態で残っているそうです。近鉄石切駅を出発すると、すぐ生駒山への急登が始まる。道の傍らには綺麗に涎掛けを掛けられた石仏群や祠堂などがあり急登の疲れを癒してくれる。生駒山の1等三角点は遊園地のSL列車の線路内にあり柵の外からしか眺められず残念です。生駒山を過ぎ展望広場まで来ると、西側は大阪平野や六甲の山並みが一望のもと見渡せ、7日にオープンした『あべのハルカス』もはっきりと見え高安山までお供となる。東側に目をやると矢田丘陵から奈良盆地も見渡せ、絶好のビューポイントです。高安山までは、今は国道となっている暗峠をはじめ、昔の大坂と大和を行き交った峠を横切り、木々の間から大阪平野を見ながら、春の日差しを浴び気持ち良いハイキングになる。縦走中何組かの団体とすれ違い、30数名のパーティーを見ると10周年記念事業のEPE例会を思い起こす。今回の例会の最後の山、高安山は林道脇の電柱に高安山と落書きのように書いてあるだけで気を付けていないと行き過ぎてしまう。登山道に入り少し登ると頂上に着く。頂上は、樹木に覆われてあまり展望がきかない。あとは恩智駅に向け下りになるが、午後3時でも登ってくる人があり、地元の山を感じさせられる。今日は日本列島に寒気が入り、吹く風は冷たかったが、うぐいすの鳴き声も聞けて気持ちの良い例会でした。記:杉本(康)									
連番	555	例会No.	一般351	内容	ベーシック登山No. 23 生駒山地・飯盛山	実施年月日	2014/3/15	担当者	秋田、大石	
参加者	秋田文雄、大石隆生、安本昭久、岡本佳久、堀木宣夫、青木義雄、杉本栄子、紀伊栞本節雄、野口秀								参加者数	9
担当者コメント	戒バス停(10:15)を川沿いに住宅街を行くと、車のゲイトを通り緩い林道登ると堂尾池に着く。これより、ふれあいの森へ登山道は分岐あるが、むろいけ園地方向に行けば四條畷市野外活動センター(11:10)に出る。前の車道を渡ると室池のひょうたん橋これを渡り湿生花園、ミズバショウ、リュウキンカ、カキツバタ等咲くらしい。むろいけ園地案内所(11:30)室池かかるかも橋を渡り少し急な登山道を下り権現の滝に。滝は、二段約15mで水量も多く近郊の山では、立派に見えました。ここで昼食(12:20)滝谷楠水の場合下る。水飲み場の林道の手前より、工事中の迂回道り急な登山道を飯盛山に13:14)頂上は展望も良く大阪平野一望に春は桜咲き憩いの場所で正面に南北朝期の楠木正行公の銅像がある。慈眼寺へは道標も整備され雑木林の登山道下る(我々は竹林コース)。慈眼寺の途中の展望吊り橋から大阪市内のビル郡が良く見渡せる。(梅田、難波、阿倍野方面最近阿倍野のビル良く分かる。)その下が慈眼寺14:16(野崎観音)。野崎観音は本尊は十一面観世音菩薩で宗派は漕同宗。境内は悲恋物語のお染め久松の供養塚あり落語(のざきまいり)や東海林太郎(野崎小唄)この慈眼寺から参道を直進すればJR野崎駅(14:37)に着く。記:秋田									
連番	556	例会No.	OP196	内容	福井・法恩寺山	実施年月日	2014/3/15~16	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、安岡和子、神阪洋子、川守田康行、村浪義光、黒澤百合子、保木道代、安本嘉								参加者数	9

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>信仰の山である白山に至る昔からの登山道は白山禅定道と呼ばれ、越前禅定道、加賀禅定道、美濃禅定道がある。今回の平泉寺～法恩寺山～伏拝に至るルートは越前禅定道の一部であり、白山を巡る歴史の道の一部を辿ったことにもなる。法恩寺山の西面にはスキージャンプ勝山のゲレンデが山頂直下まで迫っており、リフトの動く音やスキー場の喧騒が聞こえ、時々スキーヤーを横目で見ながらの登山となってしまうが、そのせいか登山者は少ない山だ。おかげで避難小屋は我々だけで使用でき余裕のある登山ができた。また避難小屋からの法恩寺山往復だけではあまりに容易過ぎるので先の伏拝まで足を延ばす計画にしたので運動量としても適当だった。二日目の天候がいまひとつで感激の展望とはいかなかったのが残念だが、恒例の3月の積雪期登山を計画通りに実施できて満足であった。 記:板谷</p>									
連番	557	例会No.	一般352	内容	湖南アルプス・太神山～矢筈ヶ岳	実施年月日	2014/3/23	担当者	野原、前田	
参加者	野原勇、前田守、山根初好、紀伊壱本節雄、安本昭久、堀木宣夫、青木義雄、杉本栄子、安本嘉代、黒澤百合子、岸田暎子、谷村洋子、近藤さとみ、寄川都美子、保木道代、佐藤敏子								参加者数	16
担当者コメント	<p>アルプスと名の付いた山は国内に数多くある。この太神山一帯も飛鳥時代から奈良時代にかけて都の造営や大寺院の建立に木材が伐採され、その後は燃料や灯り用として松の根まで掘り起こして採取。結果として明治初期には全山山肌が露出し、その景観から大正末期に「湖南アルプス」と呼ばれるようになったようですが、100年以上の砂防事業、植林事業の結果、現在の姿に復元されたとのこと。自然の回復に向けた先人の努力と共に自然の復元力の強さを感じました。これは六甲山の歴史とも重なる部分があります。当初の予定では石山駅から路線バスでアルプス登山口まで行く予定でしたが、待ち時間が長いためタクシーで向かうこととした。また今回は前田さんに急遽サブリーダーをお願いしました。太神山までの道は、不動寺への参詣道であると共に東海自然歩道でもあるため道も整備されています。迎不動、中不動、泣不動を経て二尊門に至る。道の両側にはマツタケ山の立入警告表示とビニール紐が延々と張られ、やや世知辛い感あり。二尊門では二体の像がお出迎え、その表情や性別にメンバーで話題が飛び交う。不動寺の本堂は長い石段を上った太神山頂上直下にあり、巨岩に寄り添ったような懸崖造りという特殊な構造で、大岩の隙間をくぐる胎内潜りなどを皆で体験。矢筈ヶ岳へは登ってきた道に戻り、枝道に入る。入口に極小の看板が掛かっていたが、あまりに小さく見落とすそう。矢筈ヶ岳までのルートは木に巻かれたテープや標布などがやたらと多い。矢筈ヶ岳頂上には三角点はないが、琵琶湖方面の展望が少しあり。先客2名が静かにお弁当を食べていたが、突然の16名の登場で騒々しかったかも。下山は、もと来た道を出合(峠)まで急降下し左折。樹林帯を御仏河原へ下った後、岩のごろごろした道を通り、タクシーを降りたスタート地点到着。アルプス登山口バス停まで車道をのんびり歩きすぎて、一足遅れでバスに乗り遅れてしまった。バス停前で解散。今回は天候にも恵まれ、大きな登り下りも少なくのんびりとした山行でした。 記:野原</p>									
連番	558	例会No.	OP197	内容	敦賀・木ノ芽峠と城砦群 歴史探訪シリーズNo. 25	実施年月日	2014/3/30	担当者	小椋(勝)、 紀伊壱本(節)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	中止									
連番	559	例会No.	一般353	内容	北摂・大岩ヶ岳	実施年月日	2014/4/5	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、西村晶、和田良次、和田敬子、池田える子、實操綾子、和田都子、藤田喜久江、小杉美代子、増本雅美、水鳥川純子、杉本栄子、安本嘉代、江本恭子								参加者数	14
担当者コメント	<p>千苜ダムの桜まつりに合わせて例会を決めました。実際は桜の老木がほとんど無く、少ない若木にちらほら花がついている程度で寂しい桜まつりであった。まつり会場よりも道場駅前、ダム水道局、武庫川対岸の桜が今まさに盛り。登山口へは、ダム直下の橋を渡る。ダムは幅106m、高さ42mあり、全面に水が放流されている。その水量は誠に圧巻である。川にそって少し戻り気味に進む。フェンスが直角に曲がり、上方に向かっていく処までいく。少し分かりづらいがここが実質の登山口。フェンスに導かれるように登りが始まる。ダム湖が見え隠れする山道をたどり12時頂上着。ランチタイムとする。円錐形の羽束山が間近に見え360度の展望である。下りは丸山方面へ。この道は中々良い。薄いピンクのさつきの花や、タムシバのような白い花が、冬枯れの雑木林の中でひととき目をひく。春の始まりを感じさせる里山の道である。丸山湿原はまだ緑はなく、茶色の枯れた原っぱで見るべきものがない。登り下りの少ない里山道を東山橋から道場駅へ。 記:翁長</p>									
連番	560	例会No.	一般354	内容	六甲・ロックガーデン岩場めぐり	実施年月日	2014/4/13	担当者	大石、紀伊壱本(節)	
参加者	大石隆生、紀伊壱本節雄、櫻田克彦、野口秀也、西村晶、山根初好、杉本栄子、小杉美代子、黒澤百								参加者数	9
担当者コメント	<p>芦屋川駅前の広場で出発の挨拶をすませ、散り始めた川沿いの桜を眺めながら高座ノ滝へ。滝の右岸の樹影にある藤木九三翁のレリーフに敬意を表し、ロックガーデンのメインルートである中央尾根を越えて地獄谷に入る。ゲートロックには何人かのクライマーが取り付いている。時折現れる小滝を登り、岩がゴロゴロしている谷筋をつめて小便滝へ。ゲートロックからここまでは興ざめな堰堤が一つもなく、六甲の他の谷筋とは違って自然がそのまま残っている。A懸(A懸垂岩)では、麻のザイルでの往時の懸垂下降の方法を聞き、寄り道でA懸の頭に登って眺望を楽しんでから、風化した万物相を通り抜けて崩壊したB懸(B懸垂岩)へ。ここでも崩壊する前の様子を聞くと、今となっては想像のみ。一頻りの昔話が終わり、月世界(泉州山岳会ではこう呼んでいるが、RCCの時代では、新万物相又は墓場と呼ばれていたのではないかと思う)から騒がしい風吹岩での休憩を諦めて横ノ池の先の広場まで我慢して歩き、ここで昼休憩をとる。休憩の後、保久良神社経由で下山する2人を見送り荒地山へ。ここまでは、山桜、ツツジと目を楽しませてくれたが更に馬酔木が加わり、六甲山の春そのもの。馬酔木の香りを感じながら荒地山を過ぎ、城山への尾根を下る。露岩が出てきた辺りでコースを西にそって岩小屋へ。積み重なった岩の下の空間で入口が西向きなので、初めてだと分かりにくいかも。コースに戻り、岩の下をくぐり抜ける新七右衛門峠、段差が大きい岩梯子を過ぎ、ブラックロックを横目下って行く。下りきった辺りから高座谷への踏跡に入るがこれが間違いで、ブラックロックの取付きを通らないまま奥高座ノ滝へ降りてしまう。イタリアンリッジへの登りは分からないまま、キャッスルウォールを登るクライマーを対岸に眺めてから高座谷を高座ノ滝へと下り、芦屋川駅に戻って今回の例会を終了した。 記:大石</p>									
連番	561	例会No.	一般355	内容	紀泉アルプス・雲山峰～狙石山	実施年月日	2014/4/20	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

参加者	小椋勝久、杉本康夫、寄川都美子、和田敬子、池田える子、牛山友幸、和田都子、杉本栄子、片山純江、青木義雄				参加者数	10			
担当者コメント	午後から雨の予報、挨拶も早々に切り上げ歩き始める。第1パノラマに着いた頃から雨が降り始め、しばらくすると本降りの雨、たまたま雨具を出す。今日は途中で下山かと思いつきながら歩いているうちに、雨も上がり小雨ながらもまずまずの天気。この地方の山の桜はもう終わり、ミツバツツジが行く季節を惜しむかのようにひっそりと残っている程度でした。しかし、代わりに私達を迎えてくれたのは、これからは、私達の季節だと言わんばかりに木々たちが鮮やかな新緑を芽生えさせ、鳥たちの鳴き声は空高くにぎやかに鳴き始めていました。これも山笑うと言う事か？と納得する。雨の様子を気にしながら、雲山峰、大福山を足早に通る過ぎ、俎石山につく頃にはまた雨が降り始める。俎石山からは雨霞に煙る関空を眺め下山する。今回、長く歩くのは初めての方がいらっしゃいましたが、最後まで歩くことができ本当に良かったと思います。歩きながら思いついた下手な俳句を一句。里山の 鳥なく声に 山笑う 記:小椋(勝)								
連番	562	例会No.	一般356	内容	ベーシック登山No. 24 近江・猪の鼻ヶ岳	実施年月日	2014/4/26	担当者	紀伊榎本(節)、大石
参加者	紀伊榎本節雄、大石隆生、青木義雄、堀木宣夫、杉本栄子、寺島直子、岸田暎子、谷村洋子、近藤さとみ、安本嘉代、池田える子、藤田喜久江、和田都子、片山純江、寄川都美子、山下登志子、佐藤敏子				参加者数	17			
担当者コメント	今回は24回目のベーシック登山である。毎回、秋田リーダーの継続的なリードで参加者の人気は高い。「ただリーダーと一緒に楽しく歩くだけ」というシンプルな趣向が、なおよこばれているようである。さて、ピンチヒッターを務めてみれば、猪の鼻ヶ岳という奇妙な山名である。東隣は綿向山(1110m)、南の谷はシャクナゲ溪谷という、いってみれば猪の鼻ヶ岳はどちらの訪問者からも敬遠される不遇の山である。ところがこれがまた私共には好ましく思われるのだから、EPEは結構なクラブである。音羽城跡の存在は地図を見るまでは知らなかった。戦国大名蒲生氏郷の系譜はここにあると知れば、なるほど周囲の景色は一変して見える。近江の広大で豊潤な平地を眺め、背後に宝殿山(猪の鼻ヶ岳)控えた音羽城の光景は、不遇などとは無縁の大地である。ワクワクした気持ちを抑えながら、たとえ踏み跡が失せた藪山でも、その存在を確かめずにはおられない楽しみがある。これがベーシック登山に適合したものかどうか、参加者の皆さんにお尋ねしたいところである。シャクナゲ溪谷の値打ちは、むしろ帰宅後に湧いてきました。石楠花の群生はいつでも見たいときには見られるという気持ちが登山者の心底にあるが、それは今の私には不適合な思いだと悟らねばならない。即ち見れるときに見て楽しむ、そして素直に感動する。その心得が肝要だと自ら戒めています。 記:紀伊榎本(節)								
連番	563	例会No.	OP198	内容	中央アルプス・空木岳	実施年月日	2014/4/27~29	担当者	板谷、安部
参加者	板谷佳史、安部泰子、川守田康行、安岡和子				参加者数	4			
担当者コメント	例会案内では池山尾根からの往復で計画したが、同ルートには大・小地獄と呼ばれる難所があり、これを避けて木曾側の倉本コースからの往復に計画を変更して実施した。4/27 GWの連休に入っているが、幸い道中まったく空いており予定どおりの時間に登山口に駐車する。ここは空木岳の他南駒ヶ岳、越百山への登山口でもあり釣り人もまじえ先着の車が8台ほど。ここから林道を2時間、更に夏と変わらない登山道を七合目まで、やがて道は雪に埋まるようになる。予定の八合目までをあきらめて七合目少し上「仙人の泉」にテントを張る。明日はここからのアタックとする。4/28 不調でテントに待機するKさんを残し出発する。暗い樹林帯の雪面の急登が続くが、八合目を過ぎると明瞭な尾根上を行くようになり御嶽や乗鞍岳も時折望まれ気が晴れる。前日かのトレースが残りこれを追いつながら最後のトラバースで木曾殿越に。さすがに主稜線に立つと風が強い。中央アの縦走路に乗り空木岳を目指す、クサリとハシゴの箇所はほとんど雪面となり一部氷化しており緊張して通過、更に雪面のトラバースに2、3度ロープを使用して山頂へ・・・10時40分。時間に追われるように山頂を辞し下降開始、慎重を期し登りよりロープを使用する回数が増え、再び木曾殿越に戻った時は13時45分、Kさんが心配しているだろうと言いつながら更に下降を急ぐ。樹林帯でトレースを見失ってGPSを使用したりしながらテントに帰着する、16時15分。今なら明るいうちに林道終点に出られるので、このまま下山することにしてテントを撤収する。林道終点のうさぎ平に日没直前の18時45分、更に林道を下って少し雨が降り出す中、登山口駐車場に20時45分帰着。途中、車中で仮眠して29日早朝帰宅となった。今回、アタック出発に際して、私とKさんとの意思疎通が不足のままだったのでテントへの帰りの遅れを心配したKさんと留守本部の方々に心配をかけてしまいました。帰阪途中で経緯を知り恐縮の至りです、お詫びいたします。 記:板谷								
連番	564	例会No.	一般357	内容	播州・七種山	実施年月日	2014/4/29	担当者	翁長、杉本
参加者					参加者数				
担当者コメント	中止								
連番	565	例会No.	一般358	内容	湖東・織山~安土城址	実施年月日	2014/5/3	担当者	野原、西村(晶)
参加者	野原勇、西村晶、堀木宣夫、安本嘉代、寺島直子、寄川都美子、杉本栄子、山根初好、青木義雄、岸田暎子、保木道代、江本恭子、安本昭久、福田直也、戸田晴子、實操綾子				参加者数	16			



# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>「人生には真の失敗はない 前進する一過程である」これは観音正寺での昼食後、参道から繖山に戻る登り口に立っていた看板に書かれていたものです。お寺らしい説教じみた標語ですが、人生だけでなく山登りにも通じる文句でもありました。JR能登川駅から猪子山公園を経て、数百段の階段を北向岩屋十一面観音まで一気に登る。今日一番の登り。観音堂前の展望台からは眼下に能登川の町から琵琶湖まで一望できる。その後も雑木林の中に続くややきつい階段登りを繰り返しながら雨宮龍神社へ。この神社は展望にも恵まれているだけでなく、木陰もあり、風も通り抜け休憩にピッタリな場所だ。ただこの神社のさい銭箱はオープンし過ぎて、罰当たりな輩が出ないかと心配してしまう。続いて雨宮龍神社から地獄越まで下る。地獄越とは何とも恐ろしい名前だが、何の変哲もない石仏の祀られた峠だ。地獄越から繖山までは周囲の大パノラマが満喫できる尾根道、ワラビを摘みながらの稜線散歩を楽しむ。繖山から聖徳太子創建の観音正寺へ一旦下り昼食。昼食後別ルートから再度繖山頂上を目指す。登り口に冒頭の看板が立っていました。数多くの失敗を重ねてきて、今の自分が存在する。我が人生を、我が山登りを振り返ると実感する標語でした。致命的な失敗をしないように自分自身を諫める。安土城は誰でも知っている天下の名城ですが、この巨大な城址を歩いて、城壁を見て、完成から僅か3年「本能寺の変」後に焼失、現存しないのが惜しいとしか言いようがない。築城を命じた信長も凄いが、実際に工事をやった人々はもっと凄いと感心するばかりです。放映中のNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」を見る際の参考にもなりました。安土城址を後に田植への進む農道を経て、JR安土駅へ。安土駅前解散。お疲れさまでした。 記:野原</p>									
連番	566	例会No.	一般359	内容	比良・釈迦ヶ岳～堂満岳	実施年月日	2014/5/11	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、神阪洋子、近藤さとみ、杉本栄子、小杉美代子、保木道代、安岡和子、黒澤百合子、寺島直子、岸田暎子、安本嘉代、板谷佳史							参加者数	13	
担当者コメント	<p>JR線がトラブルのため電車が遅れ、比良駅に着いたのが9:20分頃、もうバスは無いと思い、タクシーを呼ぶがバスは積み残しがあり、もう一度廻って来るとの事、仕方ないのでタクシーとバスに分乗しイン谷口へ向かう。週初めの天気予報では雨の予報、しかし快晴、それも日本晴れ、その青空の下新緑の中を釈迦ヶ岳に向かって歩き始める。途中、新緑の木立の中から初夏の琵琶湖を見下ろしながらロープウェイ跡を登っていき中腹に差しかかるころからシャクナゲとイワカガミがあらわれ始める。釈迦ヶ岳直下の急登を登りきると目の前にシャクナゲの群生が突然現れる。その光景に皆、感激の声シャクナゲの花の下休憩をし、釈迦ヶ岳へ向かう、釈迦ヶ岳の頂上で昼食を取り新緑の尾根道を堂満岳に向かう、途中体調を悪くした人が出たので堂満岳を割愛し金糞峠から下山することに決め、シャクナゲ尾根を金糞峠に向かって歩く。比良峠から金糞峠までの尾根道もシャクナゲが咲き誇り皆を楽しませてくれ、金糞峠からイン谷口までの登山道はイワカガミが私達を迎えてくれました。今年はシャクナゲの当たり年だと地元の人々が言っていました、本当に花の登山でした。 記:小椋(勝)</p>									
連番	567	例会No.	一般360	内容	歴史探訪シリーズNo. 26 生駒山系・高安山～信貴山	実施年月日	2014/5/18	担当者	紀伊栞本(節)、小椋(勝)	
参加者	紀伊栞本節雄、小椋勝久、野口秀也、青木義雄、寄川都美子、保木道代、杉本栄子、岸田暎子、谷村洋子、藤田喜久江、片山純江、安本嘉代、和田都子、池田える子、松本明恵、岡本佳久、堀木宣夫、安本昭久、樺田克彦、小原武尚、福田直也							参加者数	21	
担当者コメント	<p>初夏のハイキングは楽しい。わけても爽やかな快晴の日を浴びて気心の知れた仲間と共に歩むのはなお楽しい。聖徳太子も中大兄皇子も大海皇子も、きっと世情騒然とした政務の合間に、同じ心地でこの山路を歩んだ日もあつたらう。そんな単純な想いを馳せるのが、歴史探訪の始まりである。何も知らぬまま、ただ山やの体臭を振りまいてきた我が身が、いつの間にか芯からハイキングを楽しみ、歴史探訪に勤しむ姿は愉快である。それにしても1300年の昔、この地に高安城を築かねばならなかった当時の国際情勢は、奇しくも今日の東アジアの情勢と酷似している。防衛圏拡大を試み白村江の出兵に失敗、その後、唐新羅連合軍の侵攻に備え最終防衛線として築かれた高安城。歴史は繰り返される。いま政府の直面している集団的自衛権とは、当時いか様に表現していたのであろうか、面白い課題である。関西に住まう者にとって、幸いなことにハイキング+歴史探訪の行先は絶える事はありません。参加者の皆さんの暖かい応援のもと、相棒の小椋氏もいよいよ熱がこもってきました。今後ともより一層のご声援を宜しくお願いします。 記:紀伊栞本(節)</p>									
連番	568	例会No.	一般361	内容	丹波・地蔵山～京都北山・愛宕山	実施年月日	2014/5/25	担当者	板谷、大西(恒)	
参加者	板谷佳史、大西恒雄、福田直也、安本昭久、神阪洋子、黒澤百合子、谷村洋子、近藤さとみ、安本嘉代、寄川都美子、寺島直子、安岡和子、杉本栄子、江本恭子							参加者数	14	
担当者コメント	<p>京都府には1000mを越える山は無く900m峰が14座数えられます。そのうち今日目指す地蔵山(947.6m)は京都府第5位の標高である。ここと長老ヶ岳だけが一等三角点の山です。 棚田の名所嵯峨越畑でタクシーを降り、まず芦見峠を目指す。ここは地蔵山の他竜ヶ岳、三頭山への分岐点。害獣駆除のため大勢のハンターと出会う、猪を追っているとのことだがのんびりと休憩しておられるので我々は先を急ぐ。途中2、3名の登山者と出会うもののひっそり静か、目の覚めるような馬酔木の新緑の中を一汗かいて地蔵山山頂に到着。昼食の後、新緑の中にひととき新鮮やかなヤマツツジを鑑賞しつつ愛宕山への尾根を伝う。途中、愛宕旧スキー場跡を少し探ってから愛宕山へ向かう。通常は愛宕神社を山頂(924m)としているが、その前にあまり登られていない三角点(点名愛宕 890.1m)に立ち寄る。やがて首切地蔵からの登路と合流すると一気に登山者が増え、神社境内に入ると人でいっぱい。参道沿いに咲くクリソウを鑑賞した後、水尾への分岐へ…。この道は登山者も少なく落ち着く。急坂をがまんして下ると静かな水尾の村。村の自治会が運行する保津峡駅行きバス停があり、ここで解散とした。 記:板谷</p>									
連番	569	例会No.	一般362	内容	ベーシック登山No.25 生駒山系・ほしだ園地	実施年月日	2014/6/1	担当者	秋田、大石	
参加者	秋田文雄、大石隆生、山本洋、青木義雄、寄川都美子							参加者数	5	
担当者コメント	<p>星のブランコと名付けられた吊橋やクライミングウォール等、気になるスポットがいくつもあっても、アプローチが短いからいつでも行けると行きそびれていた。「ほしだ園地」が今回の例会です。全行程中、ほとんどが遊歩道として整備されていて、子供を連れたファミリーハイキングやボーイスカウトのグループと抜きつ抜かれつしながら園地をめぐり、真夏を思わせる日差しの下を少人数でゆったりと歩きました。 記:秋田</p>									
連番	570	例会No.	OP199	内容	鈴鹿・愛知川本流遡行	実施年月日	2014/6/8	担当者	板谷、安部	

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

参加者	板谷佳史、安部泰子、古松育代、駒井万生子、前田守、黒澤百合子、保木道代、安岡和子、戸松高志、戸松みつえ、江本恭子			参加者数	11					
担当者コメント	<p>紅葉尾(ゆずりお)から神崎川林道にタクシーを乗り入れる予定であったが、昨年から車両進入が禁止されていることを知った。このため往復約1時間の歩きが増えた。神崎川発電所の取水口が入谷地点だが、その下の堰堤に出てしまい、極力ザイルを使わずスピードアップを図りたいところだが、これを越えるのにさっそくザイルを使用してしまう。堰堤の上からしばらくは河原歩き。やがて次々と深い淵をもつ急流が現れるようになる。いずれも左右をへつって通過して行く。急流の渡渉は水量多く足をすくわれないよう慎重に渡って行くがやがて渡渉を躊躇するような瀑流に阻まれる。強行するか迷った末左岸を高巻くことに。ここでトラバースにザイルを使用、更に懸垂下降で再び流れに戻ろうとするが、着地点は急流の上で懸垂のかっこうのまま対岸までジャンプを強制される。11名が終えるまで1時間以上、ここで遅い昼食休憩。すでに14時なのでエスケープを考えながら上へ向かう。15時頃左岸にエスケープに使えそうな踏み跡を確認、ここへ戻ること念頭に先へ進んでみる。やがてプールのような大淵に拒まれ15:30、予定のヒロ谷出合はまだまだ先だが、ここで時間切れということにする。先ほどの踏み跡まで戻り、登山道に出て下降することに。不明瞭な踏み跡と少しの赤テープを拾って疲れた足を進めると、やがて明瞭な登山道に出ることができた。更に神崎川林道の奥部に出てあとはタクシーが待つ林道入り口へと急いだ。記:板谷</p>									
連番	571	例会No.	一般363	内容	六甲・杣谷峠から摩耶山	実施年月日	2014/6/15	担当者	大石、翁長	
参加者	大石隆生、翁長和幸、寺島直子、和田都子、池田える子、片山純江、和田敬子、西村晶、佐藤敏子、保木道代、小杉美代子、安本昭久、安本嘉代			参加者数	13					
担当者コメント	<p>EPEクラブの例会では登りつくされた感がある六甲山系ですが、魅力あるコースはまだ残っています。今回のコースは、そのうちのひとつです。阪急六甲駅から市街地を抜け、杣谷に架る長峰橋へ。右岸から登山道に入り、雑木林の中、飛石づたいに何度か流れを渡る谷沿いの道を登って行く。幾つかの連続する小滝を眺め、切石の階段を登り杣谷峠へ。ここからはしばらく車道脇の歩道を行き、再び登山道、そして遊歩道となってハイカーや観光客で大賑わいの掬星台に着く。暑さを避けて広場の木陰でお昼休憩をとり、遊歩道を進んで黒岩尾根へ。尾根を下るだけと思っていたら、小さなピークを登っては急坂を下るを何回か繰り返して市ヶ原へ。再び遊歩道となって、布引貯水池、布引雄滝と眺めて新神戸駅へと下り、解散としました。記:大石</p>									
連番	572	例会No.	一般364	内容	比良・蛇谷ヶ峰	実施年月日	2014/6/22	担当者	杉本(康)、大石	
参加者	杉本康夫、大石隆生、保木道代、小川眞裕美、板谷佳史			参加者数	5					
担当者コメント	<p>新快速のトラブルで安曇川駅に遅れて到着。バスも出てしまったので、タクシーでグリーンパーク思い出の森の登山口まで行くことにする。タクシーの運転者の近江聖人と言われた中江藤樹(なかえとうじゅ)の自慢話を聞いているうちに登山口に到着する。なるほど道の駅も「藤樹の里あどがわ」とある。下から見上げるとこの時間ではまだ蛇谷ヶ峰は雲の中。出発する頃にはほとんど雨も上がり、雨にぬれた広葉樹の緑が一際鮮やかである。途中大きなザックを担いだ若者の数グループとすれ違う(テント泊か?)、元気だなー。登るにつれてガスに覆われ幽玄な雰囲気漂う。約2時間で頂上に着くが風を避けて少し下ったところで、休憩。晴れていれば展望も素晴らしいだろうが、琵琶湖も見えず、寒いので早々と出発する。ボボフダ峠(変わった地名だ。名前の由来はなんだろうと考えさせられる。)間近になると晴れ間も出て、向かいのリトル比良の山並みや畑の集落も樹間から覗かれる。峠からはあまり人の通っていないような道を下っていくと、昨年の大雨の影響か、あちらこちらで斜面が崩れている。林道に降り立つと昔懐かしい農村の棚田を眺めながらのんびりとバス停まで歩いて行く。記:杉本(康)</p>									
連番	573	例会No.	一般365	内容	大和・巻向山と初瀬山 ハイキング+アルファNo. 12	実施年月日	2014/6/29	担当者	紀伊塾本(節)、西村(晶)	
参加者	紀伊塾本節雄、西村晶、岸田暎子、保木道代、安本嘉代、寄川都美子、青木義雄、安本昭久、近藤さとみ、谷村洋子、寺島直子、安岡和子			参加者数	12					
担当者コメント	<p>今年初の大汗をかきました。長谷寺駅では電車を壱台見送ってでも、着替えをせずにはおられませんでしたが。でもそのあと、清々しい気分になりました。せせせとよく歩いたということでしょうか、それとも一杯の蕎麦を求めて粋狂なことをしたという思いでしょうか、私はそこにもうひとつ、今日も一日、精一杯、一緒に楽しんで頂いた仲間への感謝の気持ちでいっぱいです。大和の山々はおおらかな山容で、この国の里山としては古代から最も親しまれていた、かつ生活の糧として大切な山だったのでしょ。その片鱗は藪のなかにも、岩の陰にもみられることで、なんとなくそこに侵しがたい聖域を感じます。つい先年まで、この山々が登山の対象とは思いませんでした。ありがたいことに、近頃は魅力溢れる未知なる山々に見えてきました。今日一日、山で行き交う人もなく堪能しました。巻向山、初瀬山、素晴らしいです。そこから眺められる周辺の間山も素晴らしいです。登山の喜びは様々多様ですが、今こうして嬉々として楽しめることに心から感謝しています。記:紀伊塾本(節)</p>									
連番	574	例会No.	一般366	内容	東播磨・高御位山~桶居山	実施年月日	2014/7/6	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、西村晶、福田直也、寄川都美子、安本昭久、安本嘉代、堀木宣夫、近藤さとみ、池田える子、神阪洋子、和田敬子、寺島直子			参加者数	12					
担当者コメント	<p>曾根駅から歩く。国道2号線と並行する1ツ南の道を行く事にする。通りの雰囲気や建物からして、この道はどうも古い街道筋のようだ。ひょっとして昔の山陽道の一部だとすれば、秀吉が中国大返しで通った道である。そんな感覚で歩くと、何もかもにロマンを感じる。しかも、この地域は黒田官兵衛ゆかりの地なのだ。ことさら歴史を感じるのも不思議ではない。駅から一時間位だろうか、長尾登山口に到着。一回の休憩を入れて山頂着。意外と早く着いた。山頂の社前広場は人で賑わっている。人気の山のように。広場の片隅にはヘルメット姿のクライマーがセカンドをビレーしていた。頂上の巨岩はクライミングの対象になっているようだ。鷹ノ巣山経由で高御位山に来る人が多いが、桶居山へは我々以外に1パーティーだけであった。高御位山は304m、桶居山は248mと低山だが、小さなアップ・ダウンが多く結構疲れました。記:翁長</p>									
連番	575	例会No.	一般367	内容	北摂・明神ヶ岳と吹田ビール工場見学	実施年月日	2014/7/13	担当者	野原、翁長	

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

参加者	野原勇、翁長和幸、小杉美代子、岸田暎子、谷村洋子、横山寿夫、神阪洋子、堀木宣夫、福田直也、江本恭子			参加者数	10					
担当者コメント	梅雨時の山行だったため週間天気予報などを毎日チェックしていたが、2日前までは曇りの予報。ところが前日になると「曇りのち雨」特に午後からは雷雨の予報となった。雨中登山を覚悟。バス降車時は特に雨が強く、雨具を着用するため農協販売所の庇下に駆け込む。郵便局手前を左折、駐在所を通り過ぎしばらく歩くと「へんぼく屋」という個性的な雰囲気を持った自然木販売店があり、その真向いから農道へ向け180度方向変換。農道を4分程度歩いた箇所を左折しあぜ道を経て登山道に入る。バス停から登山道まで一切表示がなく、事前によく調べておかないと迷うこと必定。20分程度歩くとNTT管理道路に突然飛び出す。あとは車道を辿り黒柄岳頂上へ。三角点は道路を挟んだ反対側にあり、これも事前に調べておかないと分かりにくい。黒柄岳から明神ヶ岳へはNTT管理道路を延々と歩き昇尾峠へ。途中の水溜りでは泳ぎ回る多数のおたまじゃくしを発見。山々を歩き回っている我々でも、最近はおたまじゃくしを見る機会は減少する一方。昇尾峠で昼食休憩。当初の予定では明神ヶ岳から東進し中畑回轉場所バス停まで歩く予定だったが、バスの便があまりにも悪いため予定変更。昇尾峠から明神ヶ岳を往復することにする。昇尾峠から明神ヶ岳往路25分、復路20分で戻り、15分程度の道路歩きで檜田校前バス停へ。農協の販売所で買い物や着替えを済ます。に本日のメインイベント、アサヒビール吹田工場見学。この吹田工場は125年前にアサヒビールの前身「大阪麦酒会社」が産声をあげた地。タンク一基に入っているビールの量は350mL缶を1人1日1缶飲むとして、空にするには4000年もかかるという巨大なもの。そのような巨大なタンクでも、夏場の最盛期には1日でタンク3基を空にすることもあるようです。試飲銘柄は1杯目がマイナス2度のエクストラゴールド。2杯目以降はドライブプレミアム、スーパードライ、ドライブブラックの3銘柄の中から2杯選ぶということで、ビールを思いっきり堪能。試飲後、全員が満足感に浸った中、アサヒビール吹田工場内で本日の例会を解散としました。記:野原									
連番	576	例会No.	一般368	内容	京都北山・鎌倉山～峰床山	実施年月日	2014/7/20	担当者	杉本(康)、大西(恒)	
参加者	杉本康夫、大西恒雄、神阪洋子、岩崎真美子、岩崎かおり、青木義雄、板谷佳史、小杉美代子、佐藤敏子、小川眞裕美			参加者数	10					
担当者コメント	堅田からのバスの乗客は相変わらず多く、今日も臨時便が出るほどだ。ほとんどは武奈ヶ岳方面に行く人たちで、鎌倉山に向かうのは私達だけ、その分静かな登山ができる。「水神社」の鳥居の横が鎌倉山への登山口になる。車止めの鎖が張ってある横を過ぎると、すぐに「城の鼻」と言われる地点まで急登になる。鎌倉山山頂は広々として気持ち良く、のんびりしたい処だ。ここからオグロ坂峠までは、「まるくてやわらかな山容を持った山」らしくらぬ、アップダウンのある登山道になる。オグロ坂峠には祠があり、ここは、京都と小浜を結んだ最短距離の交易路小浜街道で、六尺道の名残が見られる。千年杉と名付けられている大きな杉の木を過ぎ、雰囲気の良い広葉樹の中を30分で峰床山に着く。峰床山は大原の里10名山にもなっている。山頂からは南側の展望が良く京都の山が見渡せる。「八丁平」は関西でも珍しく自然がよく残った高層湿原で、1周八丁あることから名づけられたらしい。私たちは反時計回りに半周する。中村乗越からは杉の植林の急斜面をジグザクに下って沢へ降り最後に江賀谷林道に渡る。以前は木橋が渡してあったらしいが大雨で流されたのか今は跡形もない。ここから林道もあちらこちらで崩れていて、人が通れる程度の道幅しか残っていない。対岸の擁壁も崩壊していて大雨のすごさを実感し、葛川学校前バス停に着く。記:杉本(康)									
連番	577	例会No.	OP200	内容	湖北・三重岳間谷廻行	実施年月日	2014/7/26～27	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、川守田康行、江本恭子、駒井万生子、古松育代、黒澤百合子			参加者数	7					
担当者コメント	梅雨明け以来全日晴れて猛暑が続いているのに、廻行当日だけは天気が崩れて、朝からどんより曇っている。廻行を始めて2時間ほどで雨が降り出す。沢登りだからどうせ濡れると言ってもやはり氣勢をそがれるが、そのうち止んでまた降るの繰り返し。強く降ることも無さそうなので続行することに。谷は大きな滝がある訳でもなく平凡な平流と小滝の連続が多く行程はかどった。源流直前にある7m滝の直登を避けて右を巻き登ると顕著な尾根に上がる。再び下降しても廻行はすぐ終了してしまいうるので、このまま尾根を登ることにする。一時間ほどの急登で三重岳の登山道850m付近に出ることが出来た。山頂を往復して下山する頃には雨もすっかり上がって日が射すようになる中、ルート探しの心配も無い登山道をのんびり下った。記:板谷									
連番	578	例会No.	OP201	内容	PL花火の鑑賞会・岩湧山	実施年月日	2014/8/1～2	担当者	西村(晶)、板谷	
参加者	西村晶、板谷佳史、佐藤敏子、小川眞裕美、江本恭子、近藤さとみ、小杉美代子、寺島直子、西村美幸			参加者数	9					
担当者コメント	紀見峠駅に着き、日陰に入ると涼しく感じていたのだが、岩湧山に向かって登りだすと吹きこぼれる汗を拭いながら4時間少しで頂上に着きました。頂上にタープを張り、花火見物の準備を行いました。頂上よりPLの塔が見えていたので期待をしたのですが、花火会場との距離が遠くて迫力のある打上げ花火を見る事は出来なかった。大玉が打ち上がると、さすがに大きくて美しかったです。頂上には花火見物の登山者が30人程来られており、眼下に広がる夜景と打上げ花火を楽しんでおられました。夜半より雨が降り出して、足元が冷たくて寝られない夜になりました。記:西村(晶)									
連番	579	例会No.	一般369	内容	北摂・大船山	実施年月日	2014/8/9	担当者	翁長、野原	
参加者				参加者数						
担当者コメント	雨天中止									
連番	580	例会No.	一般370	内容	六甲・仁川溪谷～ゴロゴロ岳	実施年月日	2014/8/17	担当者	大石、翁長	
参加者				参加者数						
担当者コメント	雨天中止									
連番	581	例会No.		内容	山岳会・EPE合同リーダー研修会	実施年月日	2014/8/24	担当者	梶田、翁長、板谷	

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

参加者	山岳会:榊田誠寛、西野勇治、杉山僚、本田和史、寺西正恵 EPEクラブ:翁長和幸、板谷佳史、紀伊榎本節雄、秋田文雄、大西恒雄、西村晶、大石隆生、杉本康夫、野原勇、小椋勝久、安部泰子			参加者数	16						
担当者コメント	EPEクラブ例会山行の現状に即した遭難対策が必要との認識のもと、「ハイキング道での事故者搬出について」をテーマに山岳会理事の方々のお手をわずらわし、準備と指導をお願いしました。下記の内容で実施されました。Ⅰ 負傷者搬出とその実習:徒手搬出、背負い搬送、担架搬送 Ⅱ 負傷者搬出時のロープワーク:セルフビレー(自己確保)、フリクションノット各項目は更に各種の方法に分類されるのですが、EPE例会を想定して現実に使用できそうな方法にしぼって熱心な実習が行われました。山岳会現役組とOB組の久しぶりの交流の場としても有意義なものでした。記:板谷										
連番	582	例会No.	OP202	内容	大台・東ノ川廻行	実施年月日	2014/8/30~31	担当者	板谷、安部		
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	583	例会No.	OP203	内容	六甲山・ロックガーデン	実施年月日	2014/9/6~7	担当者	西村(晶)、翁長		
参加者										参加者数	
担当者コメント	雨天中止										
連番	584	例会No.	一般371	内容	ベーシック登山No. 26 京都・瓢箪崩山	実施年月日	2014/9/13	担当者	秋田、西村(晶)		
参加者	秋田文雄、西村晶、野口秀也、實操綾子、藤田喜久江、寺島直子、佐藤敏子、紀伊榎本博美、杉本栄子、片山純江、上原進一、和田敬子、池田える子、和田都子、寄川都美子、堀木宣夫、小原武尚、横山寿夫、安本昭久、安本嘉代、喜多田恵美子、紀伊榎本節雄									参加者数	22
担当者コメント	京都バス戸寺下車。(10:15)民家の横を高野川に向かってすこし下ると、京都一周トレイル「北山24」の標識あり。高野川の橋を渡り「北山26」標識を左に、三差路を左に谷間の沢に植林の静かな林道を行く。突然前方にロープの網に鹿の角が巻きつき、外すのに林道でもがいている。助けてやりたいが、危険なので高巻きして通過する。林道から谷道に今年の大雨で登山路は崩れている。標識は無いがテープ巻いている注意していけば沢の終わりのころ、少し急な斜面を登りきると寒谷峠(11:40)に着く。峠は展望がないが北山らしい雰囲気。瓢箪崩山は峠より約15分登ると、瓢箪崩山(532・4m)三等三角点山頂に着く(12:10)。展望は比叡山が正面に良く見える。下山は山頂より寒谷峠の巻道と合流のお地藏様より植林と雑木林の尾根道を下る。道は標識がないが迷うことはない。少し急な道をジグザグ下ると、トキ池に。これより林道を行くと住宅街に入りまもなく京都バス花園町バス停に、ここから約10分で叡山鞍馬線の八幡前駅に着く。このルートは大原10名山にしては、標識も無く登山者も少ない。その分北山らしい素朴で地味な山で又大原の里山の雰囲気味わえる素晴らしい山だ。大原に行けば静かな山好きな人は一度は訪れてみて下さい。記:秋田										
連番	585	例会No.	OP204	内容	谷川岳縦走	実施年月日	2014/9/20~22	担当者	板谷、安部		
参加者	板谷佳史、安部泰子、安岡和子、保木道代									参加者数	4
担当者コメント	今夏は天候の巡り合わせが悪く例会中止が相次いだ。今回も直前まで気をもませたが決行を決めた後、次第に予報より良くなって結局連日晴れに恵まれたのは幸運でした。9/20 登山者と鉄道ファンの駅、上越線土合駅を後にマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢と辿るが、近道の新道を使ったのが失敗で、各沢の岩壁はほとんど見通せなかったのが残念。暗くなる前に蓬峠へと急ぎ、日没前に蓬ヒュッテ付近の草原にある気持ちの良いテント場に設営。小屋の高価なビールをほりこみにぎやかに過ごす。9/21 夜中は快晴の星空、朝も快晴で明けた。期待以上の好天に恵まれ喜んで出発する。縦走する頂上稜線は見渡す限り背の低い笹に覆われ、終始360度の展望が続き、心はずむ思い。蓬峠から今回の縦走最初のピーク武能岳(1759.6m)を越え、今回の最高点茂倉岳(1977.9m)に立つと待望の谷川岳頂上稜線が見渡せる。時間も順調なので予定どおり夕方には土合に下山できそうなのでゆっくり縦走路を楽しむこととする。次の一ノ倉岳(1974.2m)を越えると一ノ倉沢を左に見下ろしながらの国境稜線縦走が始まる。西面の斜面はすでに紅葉で染まっている。ここまでは他に誰一人出会わず、至福のひと時が味わえたのに、しかしここから先はロープウェイからの登山客と続々とすれ違わねばならなくなり、わづらわしい。次のオキノ耳山頂(1977m)は人だかりの状態、順番に並んで記念写真だけ写して素通りする。しばらくでトモノ耳山頂(1963.2m)、ここの人混みはまだマシでゆっくり休憩、もの珍しい群馬や越後、遠く長野の山々とマチガ沢の東南稜らしきルートクライマー等眺めて過ごす。肩の小屋やロープウェイ駅への道と別れて、ここから西黒尾根の下降に移る。上部は急峻でクサリ場も数か所あるが良く整備されている。天候も良いので、登り下りとも登山者が思ったより多い。ひたすら下り続けるコースに疲れた足を引きずる頃ようやく登山口へ下山、更にロープウェイ駅に立ち寄ってビールや運良く野菜を仕入れることも出来て、土合駅へ戻る。駅構内にテントを張り、備え付けのテーブルやイスで夕食、予定通りの山行終了を祝した。9/22 朝少し雨が来たがその後晴れ、今日も登山日和のようだ。我々は始発の上り列車に乗り込んでしばらくローカル線の旅を楽しむ。高崎に出て新幹線を乗り継ぎ帰阪した。記:板谷										
連番	586	例会No.	一般372	内容	六甲・船坂谷~最高峰	実施年月日	2014/9/21	担当者	大石、杉本(康)		
参加者	大石隆生、杉本康夫、紀伊榎本節雄、池田える子、和田都子、杉本栄子、片山純江、佐藤敏子、寺島直子、近藤さとみ、小川眞裕美、岸田暎子、安本昭久、安本嘉代									参加者数	14
担当者コメント	今回の行程の前半、ドライブウェイに出るまでの船坂谷の登りは、ハイキングの地図では途中から悪路を表わす破線となっています。実際に歩いてみるとそのとおりで、テープ等の目印を頼りに踏み跡を辿り、フィックスのトラロープを掴んで急斜面を登ったり下ったりと納得させられるものがありました。更に8月の局地的豪雨によるものか谷筋は荒れていて、流木や倒木を越え、増水でえぐられた川岸をよじ登り、土石流の跡を横断したりとスリリングな場面がありました。ドライブウェイに出てからは六甲山のメインルートとなり、歩き易い道を石の宝殿から最高峰、風吹岩を経て、日の傾きを気にしながら芦屋川駅へと下りました。記:大石										

# 2014年度('13/11~'14/10)EPEクラブ活動報告

2014/10/E現在 板谷

連番	587	例会No.	一般373	内容	京都・甘南備山	実施年月日	2014/9/28	担当者	杉本(康)、大石	
参加者	杉本康夫、大石隆生、岩本和行、櫻田克彦、青木義雄、神阪洋子、寺島直子、近藤さとみ、安本嘉代、寄川都美子、喜多田恵美子、堀木宣夫、安本昭久、翁長和幸								参加者数	14
担当者コメント	甘南備山は京田辺の主峰です。「今昔物語集」には、この山にあった神奈比寺(かんなびでら)を舞台とした話が残されており、いにしえの大昔から今日に至るまで、この山の回りの住民に親しみ続けられた山です。また、この辺りは、古事記や日本書紀に出てくる継体天皇の「筒城宮」があったり、野外能を演じたことから「薪能」が起こったと云われている薪神社があったり、多くのいわれが残っていて、歴史ロマンあふれた地域である。京田辺駅からは「やすらぎいっきゅうコース」を行くと、とんちで有名な一休さんのお寺と知られている一休寺(酬恩庵)が現れる。今回の例会はいつもと違い、登山の前にお寺に立ち寄ることにする。方丈庭園の説明を聞きながら、一休さんの偉業、偉大さに感銘を受ける。この後、田圃の中の舗装された道を甘南備山に向け歩を進める。登山口には、「甘南備山マップ」の案内図があり、ここからは旧登山道と表示のある道を行くが、案内図を見ていると舗装された管理道路と登山道が交錯し登山道だけで甘南備山に到着するのは難しいようである。30分で甘南備山に到着する。山頂には今昔物語にも記述がある式内甘奈備神社が奉られている。神社から北に展望台があって市内が一望でき、ここで昼食休憩とする。今は山麓に移転している甘南備寺跡や「きんもくせい」の小道通り、芝生広場に着くころにはズボンには気持ち悪いほどの大量の「ひつつき虫」が付き、まるで「ひつつき虫」の鎧を履いているようで重い。山麓に移転した甘南備寺を見学した後、京田辺駅で解散とする。 記:杉本(康)									
連番	588	例会No.	一般374	内容	湖北・七七頭ヶ岳	実施年月日	2014/10/5	担当者	杉本(康)、大石	
参加者									参加者数	
担当者コメント	荒天中止									
連番	589	例会No.	OP205	内容	広島・三倉岳	実施年月日	2014/10/11~12	担当者	紀伊壱本(節)、西村(晶)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	荒天中止									
連番	590	例会No.	一般375	内容	二上山~大和葛城山	実施年月日	2014/10/19	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	
参加者	小椋勝久、西村晶、杉本栄子、安本嘉代、紀伊壱本博美、村木正人、小川眞裕美、池田える子、三原博子、和田都子、寄川都美子、神阪洋子、青木義雄、安本昭久、紀伊壱本節雄								参加者数	15
担当者コメント	2週続けての荒天による例会の中止、今回が3週間ぶりの例会、私の行いが良いのか、おかげさまで快晴。阿部野橋から近鉄電車に揺られ1時間弱 二上神社口にて下車、駅前の広場で朝の挨拶と個人装備の話を少しし、歩き始める。事前情報で二上山は山頂付近で入山料金を取っているとの情報があり今回は山頂を迂回し葛城山に行くことに決め先を急ぐ、迂回しようとしていた雄山につく。休憩後、雌山に向かう途中、他の登山者にお金の話をすると、お金は必要ないとの事、な〜んだと思いつつ雌山に着く。雄山、雌山、竹ノ内峠、平石峠、岩橋山の稜線を快調に歩く途中大阪平野を望みながら来年のPLの花火のことなど余裕なのか、賑やかな話し声も聞こえてくる。葛城山手前から階段が多くなる。さすがにこの頃になると話し声も止んでしまひたすら歩くようになる。あと少しあと少しと声をかけながら歩き、葛城山の鉄塔が見えるとやっと着いたと喜びの声。時間通りに葛城山頂駅に着く、ケーブルに乗り登山口へ、下りみるとバス待ちの長蛇の列、バスは小型バス、乗れるんかい！と思いつつバスの運転手に聞くと臨時のバスが出ると言うのでバスを待ちすし詰めバスに揺られ御所駅に着く。帰りの電車の車窓から見える、二上山から葛城山までの稜線をみてよく歩いたねと参加者の口々からねぎらいの言葉が漏れる。今回初めての方、長距離を歩くのが初めての方等いらっしゃいましたがみなさん良いペースで最後まで歩きました。 記:小椋(勝)									
連番	591	例会No.	一般376	内容	湖北・乗鞍岳~黒河峠	実施年月日	2014/10/26	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、小椋美佐、寺島直子、安部泰子、安岡和子、保木道代、小川眞裕美、杉本栄子、安本嘉代、黒澤百合子、谷村洋子、岩本和行、近藤さとみ、小杉美代子、村浪義光								参加者数	16
担当者コメント	雪が無く殺風景なスキーゲレンデを30分程登って分水嶺の尾根に乗ると、自然林が美しい。ブナ林が現れ始めてやがて敦賀の岩籠山へと続く稜線に立つ。ここからは左に琵琶湖と湖北の山々、右に若狭の海と山々を眺めながらの縦走が始まる。ブナの紅葉と展望を楽しみながら乗鞍岳山頂にて昼食休憩。更に南を目指して縦走を続ける。広々としたススキの高原とブナ林が交互に現れる爽快な縦走路であった。特に乗鞍岳から芦原岳間のブナ林は2Kmあまりにわたり、紅葉と青空があいまって目を奪われるほどりっぱなものであった。芦原岳から黒河峠まで長い下りが続き、ようやく峠の林道に降り立つ。予定より早い時間であったので一安心だが、更に1時間以上の林道歩きが残っている。予定のバス停車前に乗合タクシーなるものの停留所があり電話して定時の1台以外に3台出してもらい、全員乗合の料金で駅まで乗せてくれたのは大変ラッキーでした。今回のトレイルの続きを歩きたいと言う希望が多く出たので、次回の計画を考えねばなりません。 記:板谷									
一般例会(新年会含む) : 45回 / 633名			オプション例会 : 12回 / 89名			例会合計 : 57回		参加者総数 : 722名		